

スポーツ・武道実践科学系

氏名 **はま だ はつ ゆき** 教授



主な研究テーマ

- 「柔道における競技力向上論・指導法の構築」「障がい者を対象とした柔道療法の研究」
- 「武道国際化における課題と対策」「体と健康に関する研究」

平成29年度の研究内容とその成果

柔道の国際化における課題と対策及び競技力向上・普及発展、指導法の構築に関する研究を行いました。国内および海外から多くの柔道家を受け入れ、柔道指導に関する講義や国際交流を行いました。また、指導者として各国に招聘され、日本の伝統的な基本技術を中心に応用技術までの指導を実施しました。

体と健康、知的障がい者を対象とした柔道療法に関する学会発表等を実施し、柔道を通して社会貢献活動を行いました。さらに、武道必修化に向けた指導者講習会、わかりやすい柔道授業を行うための教材作成も試みました（初転君柔道衣およびシート・トライアングルセオリーシート）。

柔道指導・研究調査活動

- 1) 肝属地区柔道会において、指導者を対象に審判講習会、強化指導部長として活動
- 2) 青少年柔道育成大会「日の丸柔道キッズ」にて講師として実技指導
- 3) フランス指導者50名を松山常盤同郷会

にて受け入れ、松山市長、愛媛県知事を表敬訪問

- 4) 肝付町高山やぶさめ祭奉納柔道大会・鹿屋市少年柔道学年別選手権大会・鹿屋市市長旗柔道大会を運営し、学生を審判・補助係員として派遣
- 5) リオ五輪パラメダリスト・広瀬悠、順子氏を肝属地区老人福祉施設協議会に招聘し講演会を実施
- 6) 大隅地区柔道会主催錬成会及び近隣少年柔道クラブでの指導
- 7) 日本武道一般社団法人 障害者武道協会 常務理事として活動
- 8) KAPICアドバイザー委員会委員として活動
- 9) 濱田初幸杯柔道大会にて講演及び講師として実技指導
- 10) フランス柔道家を受け入れ大隅地区柔道会にて合同稽古
- 11) スロベニアに単独外遊、NOC会長及び女子ナショナルヘッドコーチと交渉、鹿屋市にスロベニア柔道ナショナルチームを招聘
- 12) フランス・ブッシュ・ド・ローヌ県に

招聘され柔道指導

学術研究論文

- 1) Glycosylation and Methylation of Quercetin and Myricetin by Cultured Cells of *Phytolacca Americana*, *Natural Product Communications*, 12, 2, 523-524, 2017, 8 (共).
- 2) Biotransformation of Daidzein to Daidzein-7-Glucoside and Its Anti-allergic Activity, *Natural Product Communications*, 12, 11, 1741-1742, 2017, 11 (共).
- 3) Ferulic Acid, Methyl Ferulate, and ferulic Acid Glucopyranosyl Ester Isolated from Cultured Cells of *Phytolacca Americana*, *Natural Product Communications*, 13, 1, 67-68, 2018, 1 (共).
- 4) Resveratrol Oligosaccharide Induces mRNA Expression for SIRT, *Natural Product Communications*, in press (共).
- 5) Synthesis of Ester-linked Taxol-glycoside Conjugate and Its Application to Drug Delivery System Using Immunoliposome Targeted with Trastuzumab and Cetuximab, *Natural Product Communications*, in press (共).
- 6) 南フランス地方の柔道実態と特徴的プロジェクト：マルセイユ市を拠点に，鹿屋体育大学学術研究紀要，55, 27-40, 2017, 6 (共).
- 7) 中学校における武道教育の課題：自由

記述データの計量的分析，*武道学研究*，50, 1, 29-38, 2017, 9 (共).

- 8) 大学生男子柔道選手における体重とFFMIならびにFMIの関係，*武道学研究*，50, 3, in press (共).

学会発表

- 1) Characteristics of the Seoinage by “wrist involvement method” to prevent elbow injur, 日本武道学会第50回記念大会, 2017, 9 (共).
- 2) Quantifying Uke's head and Neck motions following judo Throws, 日本武道学会第50回記念大会, 2017, 9 (共).
- 3) Research in Jujutsu during the World War II on the basis of Shiotani-Bunko documents, 日本武道学会第50回記念大会, 2017, 9 (共).
- 4) トライアングルセオリー・シートを用いた指導が柔道初心者の大内刈動作に及ぼす影響, 日本体育学会第68回大会, 2017, 9 (共) ポスター.

講演活動

- 1) 柔道の国際化－道上伯－，松山城東杯ライオンズクラブ柔道錬成大会－濱田初幸記念大会－，2018, 2.

これからの研究の展望

柔道初心者に対して、「安全でわかりやすい」柔道指導方法や高度な競技力の向上に繋がる「効果的なトレーニング，練習方法」を独自の理論で構築，柔道の普及発展

に貢献していかなければならないと考えています。特に科学研究費補助金を獲得した、前回り受身学習用柔道衣「初転君」の効能を科学的に検証していきます（初転君及び初転君シート・トライアングルシートの開発）。

競技者あるいは世界選手権・オリンピックコーチとしての経験から学んだ「勝つ」、また「強くなる」といった観点から国際レベルで戦うことができる選手育成を目指した強化のための実践的研究も行っています。

地域の柔道会（肝属地区柔道会）と連携を図り、鹿児島国体に向けた選手強化育成、少年を対象にした「級制度」の審査システム、内容に関する共同研究を実施しています。

柔道・武道の発展を鑑み、国際性を身につけたグローバル化社会に貢献し得る人材養成を目指し、国際交流による外国チーム、選手の受け入れや海外派遣を実施していきます。

さらに、生涯学習の視点から「講道館柔道の形」、「知的障がい者の柔道指導方法」、「中高一貫教育における武道の推進」に関する研究も着手検討中です。特に、共同研究を進めている「仲野式柔道療法」は、テレビ等で大々的に報道されたことから、知的障がい者の自立支援に向けて、科学的データに基づいた検証が求められています。また、さらに健康に関する研究の一環として、スポーツ飲料に含まれている成分の代謝研究から「有効成分の解明」や「骨

強度に関する研究」など生理学的研究も他機関との連携を図りながら究明していきたいと考えています。

大学改革の波が押し寄せている中、さらなる教育、研究の研鑽、社会貢献に寄与していかなければならないと考えています。